

平第一小學校長に

本郡出身の篠山廉氏

本縣教育界の長老株

一兩日中發令か

平第一校長會我直治氏の後任者に就いては各方面に種々取沙汰されて居たが縣下の大小學校の責任者として石城郡

教育界

を背負つて立たねばならぬ位置だけに當局も此の後任物色には相當熟慮を要する爲め未だ決定さるゝに至らないが種々の状態を綜合するに安達郡本宮尋常高等小學校校長兼同實科高等女學校校長篠山廉氏が殆んど

確定的

の後任者と見られ一兩日中に正式の辭令が發せられる模様である、

梨果荷造品評會

本日入賞者決定

既報石城郡農會主催梨果荷造品評會は去る十七日より三日間平署會議室に開會したが出品二百十點に達し昨十八日午後審査せる結果果入賞者を左の如く決定本十九日午後一時から同所で褒賞授與式を行つた

- △一等(内郷)久野榮之助
- 草野雅一(平窪)根本久光
- △二等(好間)吉田文治郎
- 鯨岡忠助(内郷)草野助

小川江筋

測量終る

既報石城郡小川江筋水路は工費十萬圓で八九年度に改

同氏は今年五十七才、本郡磐崎村の出身で明治三十五年三月本縣師範學校を卒業し本郡入遠野、平、小名濱の訓導を経て植田小學校長に昇進し安達、耶麻兩郡の郡視學を勤め本宮校長を奉職して現在に至り從六位勳六等の奏任待遇である家庭には賢夫人との間に六人の子あり長男は目下早稻田大學在學中又老母は故山磐崎村に住み高齢にも拘らず壯健の由にて篠山校長は最後の

漁港改修の

工事繼續を陳情

御奉公として錦衣を故郷に飾るのである

就職斡旋

平商の打合

平商業學校では昨日午後二時より職員會議を開き來春卒業する生徒の就職斡旋方及び上級學校志望者に對する指導方法を協議した

収入役後任難

石城郡湯本町では豫てより缺員中であつた収入役後任として過般の町で同町村上六

係村代表と協議の上來月未より愈々着工する豫定である

練習開始

新設の剣道部

今學期より新設された平第一校の剣道部では昨日午後一時より同校講堂に於いて指導訓導より道場に於ける作方及ぶ練習上の注意等あつたが希望者は五年以上約二百五十名で來る二十一日から第一回の練習を開始する

修着工すべく十三日より縣耕地課の近石技手が下小川の源水門より上平窪字君ヶ澤間の實地測量中であつたが昨十八日を以つて測量を終り同夜歸郷したが近く關

石城郡江名中ノ作豊間の三漁港は現在匡救事業として夫々工事中であるが此の事業を今年度だけで打切られは漁港としての完成を見られないので河野江名町長外漁業組合長幹部の一行十餘名は昨十八日井上、野崎兩縣議と共に出縣、九年度も繼續され度しと陳情した

平氏を推薦し同氏の承諾を求めた處家事の都合を理由として不承諾なので後任難に陥つて居る

四區兒童競技 既報石城第四區草野、神谷、大浦、大野第一、第二、四倉、夏井、高久、豊間の各小學校兒童競技會は昨日午前八時より草野校庭で開催されたが優勝校は尋常科が大浦高等科が草野小學校であつた

巖谷先生!

川崎小鳥

先生の述懐 (2) が、其中に僕は既に生意氣になつて來た。そして聊かながらも自覺心の萌芽が

頭をあげて來ると、かうした許嫁結婚の様な盲從的の修學法が忌しく不快になつて來た。そして醫學とは全く反對の文學方面にのみ趣味を持つ様になつた。云はゞ文學と云ふ情人を得て之と自由結婚がしたくてならなかつた。

その代り、當時の各學校で机を列べ肩を比べて居た連中には、僕の代りといふでもないが今日立派に成功して社會に頭角を顯はして居る人が多い。

其一番古いのは訓蒙學舎に居た岡村龍彦君や、林君だ、後で聞けば三島通良君も、彼所に居たと云ふ事だが、僕はどうも覺えて居ない。

醫學豫備校からは其の名の示す如く、立派なお醫者様が澤山出て居る。當年僕と一緒に居た連中では北島多一君、藤浪鑑君、三輪信太郎君、吾妻勝剛君、森島庫太君など、今日の大家である。

又獨乙學協會學校からは必しも醫者許り出では居ないが木下正中君、橋本節齋君、柳保三郎君などは當年の西小川町の校舎でよく顔を見覚えて居たものだ。あの木下君の赤い靴足袋はよく目を惹いたものがある

純郷土文藝誌 **草汁** (每号六十頁以上) 一部十五錢 送料二錢

原稿募集—短篇小説、短歌、詩、俳句、民謡等
發行所 草汁堂
千葉縣山武郡公平村名二四八
福島縣平町胡摩澤一七
申込所 福島縣平支部 窪田志朗

正木織物店ノ生命也

絹織物、正木織物店へ
開業三十五週年を祝するたため
二割引にて大々的勉強御註文に應ず
御註文ノ時(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳貳番(公園下)
白生地 賃織販賣 **正木織物店**

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五二三番
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

専門 内科一般

宅診—内科は何でも診療致します
往診—呼吸器病ばかりではあまりせん
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井 重之
醫學士 川井 安子
電話一八一番

匡救事業が完成し

再び大量の失業者

内郷村其の處置に窮し

各方面に就職口を開拓

石城郡内郷村では匡救事業として去る六月より工費一萬餘圓を以つて道路及び河川の改修工事を進めて居たが最近大半完成した結果職を失つた失業者六百名に達しその内二百名は一日交代で工事跡の仕末に就業して居るが殘餘の失業者整理に就き村當局は各方面に照會してその職に努めて居る

事變記念の夕 石城郡錦村小學校では本十九日午後七時より講堂に於いて滿洲事變記念の夕を催すと

商港改修視察 内務

省土木局高田技師は昨十八日來平小林平土木監督所長の案内で小名濱商港工事の状況を視察即日歸京した

突如下る動員令

鹿島村が縣下最初の

模範動員を昨日執行

不參僅かに二名

既報石城郡鹿島村在郷軍人分會では昨十八日の滿洲事變記念日に際し縣下最初の試みとして午前四時五十分を期し會員百四十七名に對して模範動員令を發した處完全な應召者七十三名、當人不在で家族が參加せる者七十二名、事故不參僅かに二名と云ふ好成績を見た

藏方に忍入り桶職人の道具一揃(時價二十圓)を窃取逃走した外江名小名濱等で窃盗十件を働き昨十八日江名町を徘徊中密行の平署員に捕れた

半焼火葬

遺族が告訴

窃盜十四犯

江名濱で捕ふ

田村郡御館村字下枝生れ當時住所不定無職窃盜前科十四犯松本卯之吉(五)は去月廿四日豊岡村字薄磯渡邊源

石城郡磐崎村字藤原高木政技(三)は八月十一日腸チブスにかゝり隔離舎に收容されたが去る十日前死亡したので同村字日渡日雇業大見與(五)外一名に五圓を與へ附近山林で火葬方を依頼し

少年の死は

番人の不注意か

三堀檢事愛谷堰に急行

平檢事局三堀檢事は本日高木書記を隨行實地檢證の爲め好間村愛谷堰に出張したがこれは去月十四日午前八時頃好間村大字愛谷農定藏次男勝沼新吉(三)君が同堰附近で遊泳中鐵製堰堤に挟まれ窒息した事件に關するもので同堰の番人同村船尾泰孝(五)の不注意に基づくものであるとして檢事の活動を促したもので多分船尾番人は業務上過失致死罪として起訴される模様であると

胤を宿し昨年十二月十七日男子を分娩したるも青木は無情にも捨て、顧みないのが其仕打を憤り山野邊辯護士を代理人として平支部に私生子認知の訴を提起した

屍体浪打際で發見

河中に轉落した泥酔漢

昨報去る十六日午後六時頃泥酔して大浦村仁井田地内横川橋を通行中河中に轉落溺死した草野村大字下神谷字澤帯居住農新妻保太郎(三)の屍体は同村消防、青年團員が出勤捜査に盡力した結果昨日午後三時頃同村澤帯河口の波打際にて發見された

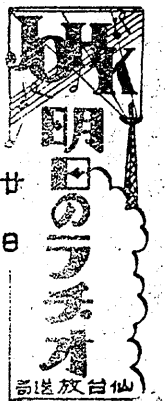
磐崎青年總會

石城郡磐崎村字藤原男女青年團

は来る廿三日午前九時より同村第二小學校に講演會を開き縣社會教育會主事補黒田吉之助の講話がある

入遠野の縣道

石城郡入遠野村地内縣道の匡救工事は工費二千五百圓で七



明日のラジオ
今夜は北東の風
晴曇半し明日は南
東の風雲

- 今晚の部
- 後六、〇〇 青い鳥 管絃
 - 後六、二五 基避フランス
 - 語講座 目黒三郎
 - 後七、三〇 ロンドン經濟會議後に於ける海運界
 - 黒川新次郎
 - 後八、〇〇 夜間演藝
 - アノ獨奏 拓植千代
 - 後八、二〇 尺八 菅原昌
 - 童 吉方謙一郎
 - 後八、四〇 地唄「面影」
 - 萩原正吟
 - 後九、〇〇 漫談「夫婦喧嘩」 大辻司郎
 - 後九、三〇 時報 ニュー
 - 氣象通報 番組報告

- 明日の部
- 前六、三〇 基礎英語講座
 - (五) 岡倉由三郎
 - 前七、三〇 佛敎講座「妙法蓮華經如來壽量品偈」
 - (一) 清水谷泰順
 - 前九、一〇 料理献立「鱈の酢のもの」中村光三
 - 前一〇、三〇 家庭メモ
 - 前一〇、三五 盲腸炎 篠原博士
 - 後〇、〇五 彼岸會法要 (第一日) 大阪四天王寺中繼 導師 木下寂善
 - 後一、一〇 野球試合實況
 - 「東京大學野球聯盟リーグ戦」(豫備日)定時は中繼して放送す
 - 明治神宮球場より中繼
 - 後二、〇〇 家庭大學講席 (一)「南書入門」小室翠雲
 - 後六、〇〇 (子供の時間) お話「科學の力」高岡齊
 - 後六、二五 趣味講演「眞藹と馬琴」江見水蔭
 - 後七、三〇 講演の夕(海外史上の人物を各時代別に語る) 沼田頼輔・中村孝也、尾佐竹猛
 - 後九、〇〇 映畫物語「埋藏金三万兩」駒井司郎

身に餘る

腹の處置

雇主が早合點

平町字鎌田町一三市川ミヨ(二)は去る十五日双葉郡浪江町字上徳町二一カフエー松竹事石川チヨ方に前借百餘圓で女給に住込んだが情人である平町中町居住遠藤正(三)の胤を宿して妊娠三ヶ月の身となり是の始末を相談する爲め昨十八日夜無断で前記松竹方を飛出し平町に立戻つたので抱主は前借踏み倒しと早合點して平署に取押へ方を願出たので本十九日ミヨが遠藤方へ立寄つた處を取押られ抱主に引渡された

平職筆紹介所報告

- 回人を求める方
- △小店員 十三才 尋卒
 - △仕着小遣(平町某)
 - △配達夫 二十六才 尋卒
 - △日給五六十錢(平町某)
 - △雜役 十八才 尋卒
 - △七八圓(平町某)
 - △菓子製造見習 二十才 尋卒
 - △月五圓(平町某)
- 回職を求める方
- △坑夫 四十二才 高卒
 - △給料面談(赤井村某)
 - △商店雜役 三十九才 尋
 - △四修 給料面談(平町某)
 - △雜婦 六十才 無學 給
 - △料面談(平町某)
 - △ボール箱製造 二十二才 尋卒
 - △給料面談(好間村某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第四十四回 血に飢ゆる村正

當外れの眞劍勝負

武「手前は性來の武骨者に
て常々殿の御意に叶はざる
事は存じて居ります、然し
親重代の食祿は鞍馬八流に
て頂戴をいたす、それに控
へる主永などは巧言令色に
て御加増をいたす實に武士
の風上にも置けざる奴」
聞くより主水は面色を變

主「控へる武助巧、言令色
とは何だ、某も八重垣流の
槍術を以つて食祿を頂戴い
たす」

武「アハ、其方のは口
先で頂戴いたす食祿、其方
とは身分が違ふ、動もすれ
ば御前に於いて唄つたり踊
つたり、幫間同様のその方
誠に侍、都築武助は詞を交
はすも汚ららしいワ」

と武助は遠慮もなく恥か
しめたので八重垣主水も今
は堪え兼ね、殿様の御顔を
ジロリと見る殿に於いても
烈火の如く御憤り、

殿「控へる武助主水の加増
を羨み此の場に至つて惡口
いたすか、問答は無益ぢや
目通りにて兩人とも其の腕
前を比べて見い」
武「委細長まり奉り」

主「望む所でムいませう」
殿「左様か、早々致して見
せえ、侍共の手本にも相成
ること兩人共に遠慮いたす
な」
主「恐れながら拙者自身に



槍を取りまする前に門人一
兩名を差出したく此の段願
ひ奉りまする」

殿「左様か夫は其方勝手に
いたせ」と仰しやる是れ最
層でございます主水は胸中
に武助の腕前をよく試して
から自分が出る氣でござい
まするから魚住又一郎、比
留間文藏、山本勝右衛門の

三人を差出しました、此の
事を聞いた武助は打笑ひ、
初めより主水の出ぬは拙者
の腕前を試し見やうといふ
下心に相違ないと笑ひなが
ら支度をいたし、お庭先へ
立出でまする、魚住、比留
間、山本の三人は主水の指
命に依つて何れも禪鉢巻の
用意をなした九尺柄の槍を
以つて庭先へ立出でました
正面には殿様此の試合を御
見物に相成る當日出仕の家
老中老物頭番頭を始めとし
て何れも見物して居りまし
た、第一番に魚住が生まれ
たが手もなく負て終ひ、二

事は出来ずとあつて、今更
病氣とも申兼ね暫らく思案
をなしたるが何思ひげん本
多唐之亮殿の前へ進み」
主「恐れながら願ひます
る」
殿「何事ぢや」
主「先刻より試合の様子を
見て居りましたが太平の化
粧試合、是にては全くの腕
前も分り兼ねますれば此度
は都築武助と眞劍の勝負を
お免しに預かりたい」
と申しました是は今に至
つて勝負をしない譯にもな
りません、ソコで眞劍勝負
といつたら平常から殿が愛
して下さる主水故、眞劍勝
負はならぬ此後に致せと仰
しやつて下さるだらうと思
つて眞劍勝負を願ひました
又殿は之を聞き召して平常
より憎んで居る武助なり殊
に八重垣主水を名人だと思
つて在つしやる故

番に比留間文藏、丸で對手
になりません、出たかと思
ふと槍を打落され眉間をし
た、か打たれて退る、三番
に出た山本勝右衛門は武助
の爲めに胸を打たれ其儘庭
先へ倒れましのは餘ほど不
体裁でございました、見て
居た主水は胸中に驚き迎も
尋常では都築武助に勝つ

殿「ウム、眞劍勝負をいた
したいと申すか、勇ましい
事だ早速いたせ免すぞ」
主水は當が外れて失策し
たと思つたが今更兎や角い
ふ譯にもならず、スゴク
支度をいたしました、此時
武助は御家老本多齋宮の顔
をジロリと見ました
齋「武助遠慮に及ばん、殿
より御免しのある上は運を
天に任して眞劍の勝負いた
せ」
と、仰しやりながら、當
家の佞人八重垣主水を切つ
て終へと云はぬばかりに目
配をなす、武助は心得て支
度をする、木劍竹刀と違ひ
一ツ受け損じる時は貴重

生命を失ふ事ゆえ、互に充
分の支度をいたしました、
然れども都築武助は前々申
上げます通り、鞍馬八流
は頗る名人殊に抜き拂つた
る一刀は先祖重代の籠釣瓶
當人は片目ビッコといへど
一刀を取つて立つた時は
鬼神をも一挫きにいたすべ
き勢ひである主水は己より
眞劍勝負を望んだ事ではあ
るが殿様の御扱ひを願ふが
爲の策略、夫が手違ひと相
成り今は如何とせ致し方な
く九尺柄銀杏穂の槍をしご
き、禪鉢巻確かりとしめ水
月の位に取つて進みました

御用命は...
印刷物
常警日印刷株式會社
電話三六〇番

美味で!
評判の...
イワキ
サロシ
電 352

専門
産婦人科
花柳病科
井坂醫院
電話五五九番

男女安全豫防藥
新發賣 志のぶ錠
阿康藥舖
電話四四番

貸切の...
御用命は!!!
獅子吼四四九ノ勢デ
眞先ニ... (マツサキ)
三九二タクシー!!!
上田外科醫院
電話一二九番